

## 海外実習レポート

佐藤 洋平 (YOHEI SATO)

実習先：ネパール・バクタプル

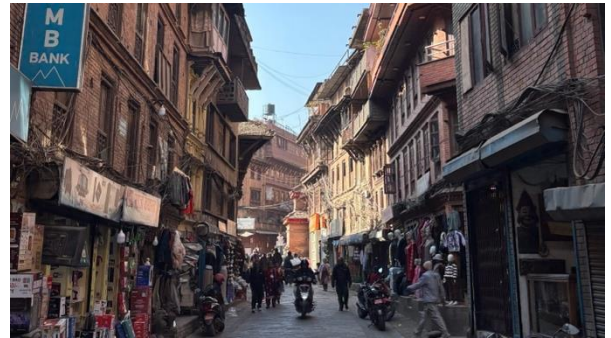
実習校：アルファ国際学院 ネパール校（雪国校）

期 間：2025年12月13日(土)～30日(火)

### [ネパール（バクタプル）]

ネパールはインドと中国（チベット）に挟まれた、多民族・多言語・多宗教の国である。実習校があるバクタプルは、ネワール族の生活様式が色濃く残る美しい街で、煉瓦造りの住居や商店の中に、多くの仏塔や寺院が点在している。

朝は4時頃からお祈りが始まり、鐘の音が静かに鳴り響く落ち着いた雰囲気であるが、日中は観光客も多く、にぎやかになる。夜は20時頃には再び静けさを取り戻し、犬の鳴き声しか聞こえない。また、バクタプルは世界遺産に登録されており、歴史を感じる街並みの中で人々の生活を垣間見ることができる。



### [実習校]

Yukiguni 日本語学校は、バクタプルの中心から徒歩20分ほどの場所にある。4階建ての建物で、受付、教室、職員室、会議室が入っている。教室は広くないが、クラスの生徒数は10名程度のためちょうどいい。

設備は生徒用の机と椅子、ホワイトボードのみで、教卓はない。電子黒板が学校に1台あるが、先生方はほとんど使用していないとのことであった。授業時間は以下のとおりである。

- ・ 6:00～11:00 初級/中級
- ・ 12:00～15:00 初級/JFT 対策
- ・ 15:00～17:00 初級

授業間に休憩時間は設定されていないが、生徒も教員も時間に対して非常におおらかで、実際には始業から10分ほど経ってから授業が始まるが多かった。日本の感覚で10分前に学校へ到着すると、まだシャッターが閉まっていることも少なくなかった。

クラスごとに開講時期が異なるようで、廊下に担当者、授業内容、宿題が毎回掲示されていた。ネパールでは日曜日から金曜日が平日で、土曜日のみが休日となる。初級クラスは毎日1時間の授業を、約6か月間行うそうである。また、金曜日の授業はアクティビティになることが多い。



## [実習]

初級クラスでは「みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ」を使用して授業が行われている。生徒が所持している教科書には語彙一覧表（ひらがな、英語、ネパール語）が添付されていた。授業の進め方は担当教員によって多少異なるが、概ね、語彙確認（口頭）、文型説明、例文・会話の音読、練習B、練習C、問題、確認テスト、という流れである。確認テストは1時間を使って行われ、その間に生徒全員のノートをチェックし、コメントを書く。

今回の実習では、単独授業、チーム・ティーチング、JFT 対策、面接練習を担当させていただいた。日本では主にスライドを使用して実践授業を行っていたため、教科書とホワイトボードのみで授業を行うことに最初は苦労した。

クラスの生徒数は10名程度であるが、名前を正確に聞き取ることが難しく、生徒の顔と名前が一致するまでに1週間かかった。名前を覚えてからは生徒の反応も良くなり、授業もテンポよく進められるようになった。しばらくすると、授業後に生徒から質問が出るようにもなった。当たり前のことではあるが、お互いを名前で呼び合うことが、コミュニケーションの第一歩であると強く実感した。担当する授業の種類が多かったため、最初の1週間は授業準備に多くの時間を要したが、慣れてくると余裕が生まれ、先生方との雑談を楽しむこともできるようになった。初級クラスを担当している先生方は、この学校の卒業生で、日本のビザを待っている状態であった。

## [生活]

毎朝5時30分にホテルを出発し、1日が始まる。授業の合間には温かいコーヒーとセルロティやサモサをいただき、11時頃に昼食を出してもらう。昼食はネパールの定食（ダルバート）で、毎回とても美味しかった。夕方にも軽食をいただき、その後ホテルへ戻る。荷物を置いた後は、Wi-Fi 環境の良いカフェを探し、授業準備に時間を費やした。余裕がある日は街歩きをしたり、寺院を見学したりしながらビールを飲むこともあった。毎朝早いため、22時には就寝し、1日を終える。

ある日、先生方から「山を見に行きましょう」と誘われ、ナガルコットという場所へ行った。ピックアップトラックの荷台に6人で乗り、1時間ほどで到着したが、想像を超える絶景に感動を覚えた。

アルケ先生（校長）の発案で、金・土の2日間、ストリートフェスティバルに参加し、日本文化を発信することになった。屋台で「焼き鳥」と「唐揚げ」を作って販売した。学校スタッフだけで始めた屋台は、次第に購入する人が増え、手伝う人も増え、屋台周りは大混乱となった。閉店後に大勢で打ち上げを行い、非常に楽しい時間を過ごすことができた。

